



## タンザニア

# BOP層実態調査レポート

- 調査期日：2013年1～2月
- 調査場所：ダルエスサラーム市内(ウパンガ地区、マンゼセ地区、シンザ地区)

\*タンザニアシリング(Tsh)換算レート 1Tsh=約17円(2013年1月レート)

### 誕生

特別なお祝い事はないが、親戚や友人知人、ご近所などが、母子にお祝いの挨拶に来る。料理やカンガ(布)、子ども服などの小さなプレゼントを持ってくることが多い。

### 聖体拝受

クリスチャンの子ども(10歳前後)が教会での教義を終了し、聖体拝受を授かった時に、ホールを借りてお客を招きお祝いすることもある。一緒に拝受した二人の子どものお祝いを職業訓練学校のホール(借料Tsh10万、約5,882円)を借りて、60人ほどのお客を招いて行なったのはSさん(男性、44歳、警備員、子ども3人。月収Tsh37万、約21,765円)とその友人(キャッサバ販売)である。ご祝儀は前もって集められ、60人の出席者のうち約半数(家族単位のため)から一軒につき約Tsh2万(約1,176円)のご祝儀があったという。





卒業式

中学校は義務教育ではないこともあり、中学4年生Oレベルと中学6年生Aレベルの卒業式には卒業生はガウンと帽子をかぶることもあり、公立学校でも少し盛大に行われる。両親がプレゼントやケーキなどの食べ物を持ち寄り、卒業生たちとお祝いする。校門近くでは、花やカードやお祝いのレイなどを売る店が出てにぎやかになる。



セカンダリーAレベル 卒業式

結婚

クリスチャンは教会で、ムスリムは新婦の家にイスラムの教養の深いSheheを招いて、それぞれ結婚の意志を確かめ、結婚証明書を出してもらう(Tsh2万から15万)。出してくれる教会などによって違う。教会では合同結婚式になることも多い。その後、車を借りて移動し、海岸などでプロのカメラマンに写真やビデオを撮ってもらい、パーティ会場に移動する。一緒に移動する親類縁者友人知人のためのバスも借りることもある。

結婚式の前に、先輩女性たちが結婚に関する指南を新婦に与えるキッチンパーティ、新婦が両親に別れを告げるセンドオフなどの催しが行われることがある。キッチンパーティはムスリム、クリスチャンともに行われることが多いが、センドオフはクリスチャンが行うことが多い。予算によってはどちらも行わないこともある。

それぞれの催しの前に新婦と付き添いの者たちは美容室へ行き、髪をセットし、化粧をしてもらう。付き添いの者たちは揃いの衣装を作って着用する。

キッチンパーティは、新婦の自宅で行われることもあるが、ホールを借りて行われることもあり、結婚指南のためというより、女たちが楽しむためのパーティとなっているようだ。Aさん(女性、25歳、会社員。月収Tsh30万)の時には借り賃Tsh30万のホールで100人のお客を招いて行われた。

祝い事の流れ

どの祝い事も、前もって関係者に、日時と場所を知らせ、ムチャング(ご祝儀)を求めるカードが配られ、事前に集められる。Zさん(女性、23歳、家政婦、月収Tsh14万)は、従姉妹の結婚式にTsh3万のご祝儀を出したという。

結婚関連の催しでは、主賓に近い女性たちは前もってお揃いの布を購入し、仕立て屋でそれぞれのドレスを仕立て、当日に着用する。お揃いのカンガTsh7,000を巻くこともある。

また、当日の流れについてもほぼ同じで、通常午後6時半頃開始。スピーカーからは大音量の音楽が流れ、参加者たちは踊りながら遅れてくる主賓を待つ。飲み物(ソーダやクリスチャンの場合はビールも)が配られ、プロの司会者が盛り上げる。



卒業祝い用 ケーキ



キッチンパーティー  
ダンスする人々



キッチンパーティ  
当事者(向かって左)と介添



主賓はだいたい1、2時間遅れて到着し、関係者の紹介が行われる。スパークリングワインが開けられ、乾杯。そしてケーキが切られる。その様子はプロによりカメラとビデオで撮影、その合間にダンスをする。ケータリングのbuffet形式、もしくは関係者の女性たちの手作りのご飯を食べることができるのがだいたい10時頃。その後、主賓へのプレゼントを渡す時間があり、またダンスをし、日付が変わるまで宴は続く。

例〜ムスリムのYさん  
(男性、31歳、会社員。月収Tsh25万) の場合

2012年3月に結婚した、結納金Tsh20万、結婚証明書Tsh2万、パーティのホール借料Tsh50万(参加者200人)、ウエディングドレス借料Tsh20万、結婚指輪Tsh4万、ケータリング料理Tsh120万、司会者と音楽Tsh15万、写真とビデオ撮影Tsh40万(プリントアウト、編集含む)などの費用合計Tsh147万がかかったが、結婚パーティの費用はご祝儀で賄えたそうだ。



結婚式 新郎新婦



結婚式場

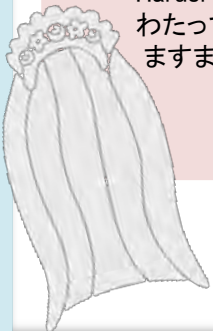


結婚式 食事

伴侶と暮らし始めた頃には、お金がなく、準備できなかったため、子どもたちがだいが大きくなってから式を挙げるケースも多い。ウエディングドレスは、BOP層は借りる場合が多いようだが、キノーニ地区のウエディングドレス専門店で購入しているのはすべて中国製で売値はTsh50万からとのことだった。



最近では、ダルエスサラームの高級ホテルなどではウエディングプランもあるが、一般には、日本の結婚式場のようにパッケージ化されてはないので、それぞれ、ホール、レンタルカー、食事、ドレス、司会者…などとコンタクトを取っていかなければならない。BOP層からはちょっと離れるかもしれないが、2011年より結婚式関連業者が一か所に集まったHarusi Trade Fareというのがダルエスサラームで3日間にわたって開催されている。これから当地での結婚式産業はますます盛り上がりを見せていくと思われる。





葬式

葬式への出席はとても大切で、宗教に関係なく、近隣の人の葬式などにも出席する必要がある。ラジオでも毎日、どこで誰が亡くなり、葬式はいつ行われるという情報を流している時間帯がある。必ずしも墓地とは限らず、自宅の庭に墓が作られることもある。地方出身者は、遺体を故郷に葬るというのが伝統的で、所属する役所・会社がその費用を負担することが多かったが、最近では運搬費用の高騰でかなわないこともよくある。

葬式は、地方の親類縁者が揃うまで、しばらく待ってから行われることもある。亡くなった人の家に弔問に行き、ランビランビと呼ばれる香典を渡す。その際に氏名といくら渡したかを記帳する。懐具合と関係性によるが、少ない場合はTsh1,000ということもある。

ムスリムの葬式には、男性しか出席しない。女性は故人の家などで待つ。また、棺桶は移動の時しか使われない。

クリスチャンの場合も、予算のない人は、既製品を購入するより、遺族が急いで大工に棺桶作成を依頼したほうが安くつくという。ダルエスサラームの庶民のエリア、マンゼセ地区の棺桶屋では、一番安いものでTsh15万だった。

国立ムヒンビリ病院の近くに葬儀屋が何軒もあり、霊柩車も手配できる。メルセデスベンツの霊柩車1日市内利用でTsh13万。生花の飾りを付けると、プラスTsh3万。棺桶を置く場所がある22人乗りのトヨタコースターは1日市内利用でTsh20万。葬儀屋訪問中に「本日、空港から自宅まで霊柩車が必要。その後、ダルエスサラームからムワンザまでコースターで運ぶといくらになるか」と聞きにきていたタンザニア人女性がいた。霊柩車より安くするために、ピックアップトラックの荷台に乗せたりすることもある。

葬式に集まった人々（ドドマ州）



葬儀（棺桶）屋



庭にお墓がある家

祭

イースター、クリスマス、イディ、マウリディというクリスチャンとムスリムの祭日はタンザニアでは休日となっている。クリスマスと断食明けの休日は最大の祭日となり、服や靴を新調したり、普段より豪華な食事をとることが多い。祭日前には市場などが大変混雑し、物価も上がる。プレゼントを贈ることなどは、あまりされてこなかったが、今後経済成長が進めば、変わってくるだろう。

バレンタインデーにカードやバラの花やその他、赤を基調にした製品などをプレゼントに送り合うようになってきている。宗教に関係なくその催しを楽しんでいる若い人たちもいる。